

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	62	学 校 名	静岡県立遠江総合高等学校	校 長 名	森 健司
------	----	-------	--------------	-------	------

1 スクール・ミッション

周智郡森町唯一の全日制総合学科の高校として、総合学科ならではの幅広い選択科目と系列学習、地域と協力したキャリア教育を軸とした教育活動を展開し、困難な状況でも自らそれを乗り越える力を身に付け、多様な人々と協働して将来の地元地域社会に積極的に参加し、その発展に貢献できる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
1 「自立した、さわやかな高校生」として地域に期待され、地域社会に積極的に参画し、その発展に貢献できる生徒 2 自分の力を発揮して、人の役に立つことができる生徒 3 笑顔ですがすがしい挨拶ができ、ルールを守り、友人を思いやることのできる生徒	1 地域社会と積極的に連携し、協働する力や社会に役立とうとする意識を育成する。 2 科目「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」を通して、自己の進路を主体的に考える力を育成する。 3 各系列の特色ある学習活動を通じて、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を育成する。	1 総合学科の特徴や特色を理解し、高校入学後、将来の職業選択を真剣に考えたい生徒 2 本校の系列の中で学びたい分野があり、高校入学後、その系列で進路実現を目指したい生徒 3 高校・上級学校卒業後、地域社会で活躍したい意欲がある生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

目指す生徒像の具体を「自立した、さわやかな高校生」として、この生徒像を実現するための教育活動（プログラム）を学校・家庭・地域が連携して展開する。

「自立した、さわやかな高校生」とは、

◎「自立」の意味するところは、「自分の力を発揮して人の役に立つこと」である。

具体的には、卒業時における次の3つの姿（キャリア教育目標）を目指す。

- 1 困難な状況に置かれても、自ら考え、学び、行動しながらそれを乗り越えることができる。
- 2 多様な相手の考えを理解したり自分の考えを伝えたりし、多様な人々と協働していくことができる。
- 3 地域社会に積極的に参画し、その発展に貢献できる。

◎「さわやかな高校生」の条件

- 1 笑顔ですがすがしく挨拶する。
- 2 清潔で整った身なりを保つ。
- 3 社会のマナーを身に付け、ルール（規則）を守る。
- 4 感謝の気持ちを持ち、公共の物を大切にする。
- 5 友人を思いやり、人のために行動する。

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。

イ 系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、※遠高16の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現を目指す。

ウ 学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びを目指す授業改善と評価の改善に取り組む。

エ 新学習指導要領への移行、高大接続改革、ICT活用等の進行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。

オ 双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。

カ 効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。

様式第1号

※遠高16の力とは…

人間関係・社会形成能力

- ① 伝える力
- ② 聴く力
- ③ 公共心
- ④ チームで働く力

自己理解・自己管理能力

- ⑤ 自己有用感
- ⑥ 自ら行動する力
- ⑦ 粘り強く行動する力
- ⑧ ストレスに対応する能力

課題対応能力

- ⑨ 課題を発見する力
- ⑩ 調べる力
- ⑪ 計画的に取り組む力
- ⑫ まとめる力

キャリアプランニング能力

- ⑬ 選択する力
- ⑭ 学びに向かう力
- ⑮ 役立とうとする意識
- ⑯ 前に踏み出す力

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
ア	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。	・充実した高校生活や卒業後の進路を見据えて全職員共通理解のもと、基本的な生活習慣、身だしなみを身に付けさせる。	・爽やかな挨拶を意識できた生徒 70%以上 ・身だしなみを意識して生活できた生徒 90%以上	生徒課 全員
		・欠席、遅刻、早退者数の減少（昨年 1日平均：欠席 17.3人、遅刻 5.9人、早退 2.7人）		教務課 全員
		・常日頃からの成長を促す生活指導、生徒観察と声掛けの徹底、規範意識の向上に努める。	・法や学校のきまりを守ることができた生徒 90%以上	生徒課 全員
		・自己管理能力の育成のため、SHRや集会、特別活動等で生徒手帳の利用を進める。	・生徒手帳の効果的利用ができた生徒 80%以上	
		・生徒の自尊心を高めるため、全ての教育活動において褒めて育て、認めて接する。	・「自分には、よいところがある（自分を大切にしようと思っている）」と答える生徒 90%以上	全員
		・相談室を核に、年次、担任をはじめ全ての職員が連携して、生徒の心のサポートを行う。	・相談できる友人や先生がいる生徒 90%以上 ・生徒相談件数 昨年比減（昨年 延べ 119件）	相談室 生徒課 各年次 全員
イ	系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、遠高16の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現を目指す。	・全職員がキャリア教育全体計画を把握し、キャリア教育目標達成のため連携・協力して推進する。	・生徒アンケート（研修課）で「キャリア教育を推進している」が昨年比増（昨年 86.3%）	総合学科 推進室 研修課
		・1年次生「産業社会と人間」、2年次生「遠高生が考える『心和らぐ森町』プロジェクト」「インターシップ」を全職員協力の元、成功させる。 ・1、2年次のキャリア教育と繋がる3年次SUTを編成する。	・キャリア教育に関するアンケートで、『聴く力』と『計画的に取り組む力』に関して「できない」と回答する生徒0%、『自ら行動する力』と『学びに向かう力』に関して「できる」と回答する生徒75%以上	総合学科 推進室 1年次 2年次 3年次 全員
		・『産業社会と人間』で、系列での学びと将来のつながりをイメージさせ、その道のプロや職業人講話などにより、キャリアプランニング能力を高める学習を実施する。	・2年次への円滑な移行とキャリア学習の接続をサポートする。 ・「卒業後の進路を見据えて系列・選択科目を選ぶことができた」と答える生徒80%以上	総合学科 推進室 各系列 1年次

様式第1号

		・進路課、推進室、年次が連携・協力して進路決定をサポートし、多様な進路に対応する。	・進路決定率 100%（3年次） ・希望進路決定率 2年次 80% 1年次 60%以上	進路課 総合学科 推進室 各年次
ウ	学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。	・教務、進路、年次が連携して効果的な学習課題の選定や実施を行う。 ・テスト前学習支援指導の推進 ・各教科でも日頃から適切な課題(宿題)を課して、学習習慣の定着を図る。	・家庭学習時間 1日平均 60分、定期テスト 1週間前から 90分をめざす。 ・「課題内容は自分の学力にとって適当なものである」と答える生徒 70%以上	教務課 進路課 各年次 各教科
		・朝読書の徹底と新聞を効果的に活用し、言語活動の充実を図る。 ・朝の読み聞かせ会を継続実施する。	・「以前よりも本に親しむことができた」と答える生徒 60%以上 ・効果的な新聞活用指導の継続 ・図書室の利用者数増	図書課 各年次
		・授業改善研修、定期訪問時の研究協議と公開授業への全員参加により、自身の授業に還元し、授業改善を進める。 ・「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール(基礎力診断テスト)を活用し、生徒の学力を的確につかみ、指導の検証、改善に結びつける。	・定期訪問時の研究授業や研究協議への参加率 100% ・全教員がアクティブラーニングを意識した授業を管理職の授業観察時に実践（実施率 100%） ・公開授業のへ参加回数平均 3回以上 ・測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員 80%以上	研修課 全員
		・全科目、全グループでの授業アンケートの実施を進め、授業改善の一助とする。	・年 2 回の授業アンケートを実施し活用する。(継続)	教務課 全員
		・主体的な学びを育成するため、目標と評価の一体化を柱に、総括的評価、形成的評価、ルーブリック評価などを組み合わせた評価方法を実践していく。	・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映させる。(実施率 100%)	
エ	新学習指導要領への移行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。	・全職員による探究活動及び ICT 活用の充実に向けた研修を進める。 ・すべての教育活動を連携、連動、協調させ、持続可能で循環する教育活動を築くことを全職員で意識し、社会に開かれた教育課程の導入を進める。	・探究活動、ICT 活用のための校内研修の実施と外部研修への積極的な参加 ・校内研修の教職員満足度 70%以上 ・教育課程の点検、検討を進める。(社会に開かれた教育課程を意識) ・ESD(持続可能な開発のための教育)の理解推進	管理職 研修課 教務課 進路課 全員

様式第 1 号

オ	双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。	情報の発信・受信だけでなく、生徒が外に出ていく、あるいは外部人材が来校して授業に関わるなど、相互交流を一層進める。	- キャリア教育に限らず、生徒自身が地域に出て行く機会を増やす。 - 各部活動による年 1 回以上のボランティア活動の実施 - 系列や専門分野での外部人材の活用推進 「学習活動において、地域との交流が行われている」と答える生徒 70%以上	各教科各系列各年次部活動
		学校ホームページの活用を推進するため、全職員が教育活動の情報（内容・写真等）を情報管理課に提供、集約させる。タイムリーな情報発信による広報活動を推進する。	- 学校ブログの更新、週 1 回以上 - 各部活動や系列の活動状況、学校行事の様子等を、大会や行事終了後 1 週間以内に、ホームページに掲載 「学校ホームページを見たことがある」と答える生徒 70%以上	情報管理課 全員
カ	効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。	防災対策、防災教育を全職員で常に意識し、非常時の生徒の安全・安心を確保する。	- 年 3 回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練の導入検討 - 防災に関するアンケートの実施、「防災意識の高まった」と答える生徒 80%以上 - 学校警備及び防災計画の継続的な点検、改善	総務課 管理職
		- 教職員がコミュニケーションを図り、連携・協力して効率よく業務を進める。 - 休暇取得の励行 - 定時退勤日の設定（毎週月曜日）と実行 - 適正な退勤時間の推進 - 部活動ガイドラインの公開に伴い円滑な履行を進める。	- 時間外勤務の出勤簿への正確な記入 1 ヶ月あたりの時間外勤務 45 時間以内、年間 360 時間以内 - 夏季休暇の完全取得 - 定時退勤日 - 午後 4 時 40 分退勤励行 - 午後 6 時完全退勤 - 平常日 - 午後 7 時退勤励行 - 午後 8 時完全退勤 - 部活動ガイドライン履行達成率 80%	管理職 全員
		コンプライアンスの意識を徹底し、不祥事の根絶を図る。	- コンプライアンス研修毎月 1 回 - 教職員の不祥事 0、体罰 0	管理職 全員
		- 全ての教育活動への支援を前提とした、効果的で適正な予算執行を進める。 - 全職員が危機管理を意識した施設設備の維持、点検、保安の推進と事務室との連携を図る。	- 教員と事務職員の連絡を密にし、計画的な予算執行の実施。 - 日頃からの清掃、点検、整備（校舎内外、農場含む）、危険箇所等の早期発見と改善に努め、施設に関する事故 0	事務室 全員